

青少年宿泊施設「あかたにの家」 活用促進イメージ

活用促進策検討のテーマ

- * 防災キャンプ(防災教育)の拠点化
- * 「自然・川」の活用と「赤谷地域PR」による差別化
- * 各種団体との連携強化

防災教育

自然・川
赤谷地域

団体連携



展開①「防災キャンプの対象拡大」

(市内向け：教育手法、市外向け：商品化)

- 教育手法➡ 幼児、適応指導教室を対象化(R5)
市民向け防災キャンプの実施(R5)
高校・大学へのPR(R6以降)
近隣市町との防災交流(R6以降)
- 商品化➡ スタディーツーリズムによる誘客(R5モデル実施)
※市まち・農水・観光・生涯で連携



防災教育

展開②「防災キャンプのプランの多様化」

「教育手法」「商品化」に対応できる多様なプランの確立(R5以降)

展開③「川を活用したプランの実施」

防災キャンプにおける「川体験」の再開
大雨災害を想定した水中歩行体験プランの実施



展開④「赤谷地域や施設的环境を活かした事業の実施」

定例イベントの企画・実施(R5)
(夏休み自由研究、Gゴルフ、「焼峰会」との連携イベント等)

展開⑤「高等教育機関や専門機関との連携強化」

防災キャンプ開始以来、協力得ている群馬大学大学院等の関係機関との連携を強化し、事業のブラッシュアップを図る
・群馬大大学院金井教授にアドバイザーに就任いただき、事業効果についての客観的評価や助言を得る

展開⑥「指導者を担える市内団体等の育成」

- 防災キャンプ➡ 想定団体：新発田社協、NPO法人加治川ネット21、敬和学園大学など
・市内団体向けの防災キャンプ指導研修の開催 / ・市民向け防災キャンプへの参加要請
- その他分野➡ 想定団体：地元団体、理セン、青少年育成団体、社会教育関係団体など

団体連携

「全市・全市民的な防災教育の展開」と「あかたにの家の認知度向上」